

□議員名：大井淳一郎

1 都市計画公園の見直し方針について

論点	見直し対象となっている公園はどれぐらいあるか。見直しの結果はどうだったか。
回答	見直しの対象は13か所である。その中で、存続か、廃止か、部分廃止かという検証を行った結果、7か所の公園を廃止し、1か所の公園を部分廃止とした。

論点	どのような視点、手順で見直しをしたのか。
回答	上位計画との整合性や、計画決定時の理由の妥当性などを精査して、必要性を検証した。次に、代替性の実現性を検証し、最後に住民ニーズがあるかなどの地域性の検証を行い、存続か廃止候補とするのかという手順で検証を行った。

論点	見直しを受けて、今後の見通しはどのようなものか。
回答	見直しの結果、整備が完了していない公園は10か所となった。整備する優先順位や時期は決まっていないが、地元要望の強いところ、また費用対効果の高いところなど、総合的な判断を行いながら、しかるべき時期に整備していきたい。

2 子ども医療費助成制度の拡充について

論点	県内の状況はどうなっているのか。
回答	本市同様、対象年齢を中学校卒業までとしている市は岩国市のみである。下関市は通院に係る医療費助成の対象年齢を中学校卒業までとしている。残りの県内市町は、18歳年度末までを対象年齢としている。

論点	高校生年代まで拡充した場合、どれぐらい予算が必要となるのか。
回答	年間で約7,000万円の増額を見込んでいる。

論点	高校生年代まで拡充する考えはあるのか。
回答	本市の子育て支援策は医療費助成制度だけでなく、入学祝金のように

	な本市独自の事業も実施している。制度の拡充については、限られた財源を最大限有効に活用する中で、その他の施策を含め、総合的に勘案し、安心して子供を産み育てられる環境づくりに努めていく。
--	---

3 窓口のD X化について

論点	本市における窓口のD X化の取組はどうなっているのか。
回答	住民票や各種証明書のコンビニ交付、市役所ロビーへのキオスク端末の設置、申請書作成支援システムの導入、キャッシュレス対応のPOSレジの設置、スマホでの市税等の納付の仕組みづくりなどを進めており、市民の皆様の利便性の向上を図っている。

論点	書かない窓口の利用状況はどうか。
回答	マイナンバーカードの情報を読み取り、申請書等に印字し、手書きする部分を省略する「書かない窓口」を令和4年3月に導入している。利用件数は徐々に増加し、令和6年12月末時点の利用者数は2,591件となっている。

論点	お悔やみ時に必要な手続を、タブレット端末などを使って一度に一つの窓口で完了できるようにしてはどうか。
回答	本市においても、デジタル庁が推進する自治体窓口D Xに取り組む中で、窓口業務の課題を洗い出し、アナログ、デジタルの改善を図り、市民と職員の負担を減らしていきたいと考えている。令和7年度中の設置に向けて取り組んでいきたい。